

いちきりょかん ほんかん げんかんとく きゅうかん しんかん もんおよ へい  
**一木旅館 本館、玄関棟、旧館、新館、門及び塀**

所在地：海南市下津町上字前原 288 登録基準：全て（一）

一木旅館は長保寺へと向かう参詣路沿いに所在するかつての旅館で、現在は料理店として活用されている。

本館は江戸末期に建設され、平屋建、切妻造、瓦葺で、軒が低い重厚な外観である。玄関棟、新館、門及び塀は昭和 12 年（1937）頃に建設され、旧館も同時期にこの地へ移築された。玄関棟は平屋建、瓦葺で、門から前庭を通る石敷きの導入路の先に建ち、各館を廊下でつなぐ。旧館と新館はいずれも二階建、入母屋造、瓦葺で、旧館一階に配置された大小四室の座敷は、銘木等を用いた凝った意匠である。新館にある五室の客室は、各室に背面の川を望む広縁が付き、落ち着きのある意匠で旧館と好対照をなす。参詣路沿いに建つ門及び塀は、杉皮葺の門と瓦葺の塀からなり、塀の腰には半割丸太を立てる等凝った造りである。

このように一木旅館は、地域の歴史的景観に欠かせない貴重な建造物である。

うえだけじゅうたく おもや はな ざしき いぬいぐら  
**上田家住宅 主屋、離れ座敷、乾蔵**

所在地：橋本市上田字荒瀬 36 登録基準：主屋、離れ座敷（二）、乾蔵（一）

紀ノ川南岸に所在する、かつて庄屋を務めた上田家の住宅である。

主屋は昭和 4 年（1929）頃に建設され、平屋建、入母屋造、瓦葺で、正面中央に玄関を構える伝統的な佇まいである。離れ座敷は明治後期に建設され、平屋建、入母屋造、瓦葺で、良材を吟味し、欄間等の細部の意匠に凝った造りの接客空間である。乾蔵は明治後期に建設され、二階建、切妻造、瓦葺の土蔵である。乾蔵は離れ座敷と共に紀州青石の石垣の上に建ち、屋敷景観を引き締めている。

このように上田家住宅は、紀ノ川沿いの歴史的景観を形成する意匠に優れた近代和風住宅である。

## **登録有形文化財（建造物）とは**

文化財登録制度は、近代を中心とする多様かつ大量の文化財を保護するため、平成 8 年の文化財保護法改正によって導入された。指定文化財とは異なり届出制を基本とする緩やかな保護制度で、登録により規制に強く縛られることはなく、建造物の様々な活用を行いやすいことが特徴である。原則として建設後 50 年を経過した建造物のうち、一定の評価※を得たものが対象となり、全国で既に 13,000 件を超える建造物が登録されている。

※登録基準 （一）国土の歴史的景観に寄与しているもの

（二）造形の規範となっているもの

（三）再現することが容易でないもの

令和4年3月 新たに登録が答申された建造物



1. 一木旅館  
南より見た全景



2. 一木旅館  
玄関棟 主屋方向を見る



3. 上田家住宅  
主屋 正面全景



4. 上田家住宅  
離れ座敷 南側面全景